



〈最終提出〉

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福祉部 コンフォート	代表者	平 俊夫	法人・事業所の特徴	事業所は静かな住宅街にある平屋で、夜間以外は施錠せず誰でも出入りしやすくしている。また、庭には畑や畑に降りれるスロープもあり、季節の野菜を栽培し利用者の皆さんと収穫し食事として提供したり、花見をしたりして季節を感じられる。ウッドデッキもあるので事業所外でも楽しめる。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所くくば原	管理者	平 成美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	ケア一覧表を定期的に見直す。又、職員のグループラインを活用して情報を共有することで利用者のケアを統一出来る。	定期的に見直しできている。ケアの統一をするため一人ひとり情報共有することを意識して日々の業務に努めている。グループラインを活用しての情報共有もうまくいっているので今後も継続していく。	改善計画が抽象的なのもっと具体的に改善計画を練る必要があるのではないか。	苦情に繋がるような対応はしないよう職員全員が意識する。(他利用者の私物の忘れ物や私物の入れ間違い、利用者の事故が減るようヒヤリを多く出す等。)
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所内・外の環境整備を継続し遊びに来られた地域の方、ご家族含め通いの利用者に季節を楽しんでいただく。	ピクニックや野菜収穫など季節を楽しんでもらえる行事を実行することが出来た。職員がウッドデッキも整備しなおしてくれた。	ウッドデッキを利用しているいろんなことが出来ている。エスケープの事故報告が度々あるので事業所に鍵がかかっていることが分かる。	事業所で四季の行事を企画、実行する。毎月ドライブや散歩など企画して外出の機会を増やしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	2019年に作成したポスターをもっと興味の引く内容に変更し、地域のお店に貼ってもらうのと包括にも持参し、サークルに参加している方に案内する。	コロナ禍で地域の方を招いてのイベントは出来ず特に交流も出来なかったがピクニックや夏祭り等事業所での行事を皆で考え取り組めた。	くくば原の畑で咲いた桜が満開になったと話があり利用者何名か連れて花見をした。コロナ禍で交流を避けている事業所は多い。	ウッドデッキを利用して、感染症対策も行いながらフリーマーケット、無人販売など地域の方が来てくれるような企画を職員全員で考え開催する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	包括主催の「ゆんたく会」に管理者だけでなく職員も順番に参加し、地域と交流を持つ。	2回程しか参加出来ていない。送迎の時間、訪問の時間に重なり参加が難しいが引き続き情報はもらいなるべく参加したい。	ゆんたく会への参加ありました。地域の行事、イベントはコロナ禍であまり開催していないが感染対策をしながら開催しているところも少しづつ増えてきた。	利用者の住んでいる地域の行事など情報収集し、参加できる機会をつくる。コロナ禍のため行事に参加する際はご家族の同意を得る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員が順番で参加し、会議の目的と意見交換の内容を知る。	コロナ禍で職員だけの開催が多かった。議事録、意見書を配布していたので意見書をもとに改善、職員同士での意見交換は意識して行えた。	構成員として家族代表、地域代表は確保できてるか。民生員の方がいれがいいが情報がない。情報収集できていない。	コロナ禍で少人数で開催することも多いが運営推進会議の構成員として家族代表と地域代表の方を確保する。

F. 事業所の 防災・災害対策	避難訓練をする前に防災計画を全員で確認してから訓練に取り組む。	防災計画を全員で確認してから訓練に取り組むことができた。	運営推進会議が終わった後に構成員交えて避難訓練をやってみたら良いと思う。備蓄も何日分あるか等資料で報告すればより頼りになる事業所だと思うのでは？	運営推進会議が終わった後に構成員も交えて避難訓練を行う。
--------------------	---------------------------------	------------------------------	--	------------------------------